



徳島県内妻川からのタメトモハゼの記録

井藤大樹¹・庄野耕生²

Author & Article Info

¹ 徳島県立博物館（徳島市）
qqx36bd@gmail.com (corresponding author)
² 阿波魚類研究会（徳島市）

Received 04 January 2026
Revised 20 January 2026
Accepted 20 January 2026
Published 21 January 2026
DOI 10.34583/ichthy.63.0_32

Taiki Ito and Kosei Shono. 2026. Record of *Giuris tolsoni* (Teleostei: Eleotridae) from the Uchizuma-gawa river, Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 63: 32–36.

Abstract

A single specimen (40.9 mm standard length) of *Giuris tolsoni* (Bleeker, 1854) collected from the Uchizuma-gawa river, Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan represents the first record of the species from Tokushima Prefecture, as well as Shikoku Island. The specimen is characterized by 14 pectoral fin rays; 31 lateral scales; 13 transverse forward series; eight scales around eye; body depth at anus 20.5% of standard length (SL); body depth at first dorsal fin 21.6% of SL; caudal peduncle height 14.9% of SL; eye diameter 7.0% of SL; interorbital length 10.9% of SL; supraorbital margin with single scale row. The occurrence of this species in the Uchizuma-gawa river in November 2025 is likely attributable to transport by ocean currents from more southern regions during the larval and juvenile stages in summer to autumn of the same year.

タメトモハゼ属 *Giuris* Sauvage, 1880 はカワアナゴ科 Eleotridae の一群で、本属魚類はインド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域における河川中流域や池沼などに生息する（瀬能ほか, 2021）。本属からは、*Giuris margaritaceus* (Valenciennes, 1837), *Giuris tolsoni* (Bleeker, 1854), *Giuris laglaizei* (Sauvage, 1880), *Giuris aporocephalus* (Macleay, 1884), *Giuris viator* Keith, Mennesson, Lord and Hubert, 2020, *Giuris yahayai* Keith and Mennesson, 2020, *Giuris charpini* Keith and Mennesson, 2020, *Giuris caussei* Keith, Mennesson and Lord, 2020 の 8 有効種が知られている（Keith et al., 2020; Keith and Mennesson, 2020）。日本からは、タメトモハゼとゴシキタメト

モハゼが記録されており（鈴木ほか, 2006; 明仁ほか, 2013; 瀬能ほか, 2021）、前者は学名未決定種または *G. tolsoni* として（鈴木ほか, 2006; 明仁ほか, 2013; 瀬能ほか, 2021; Motomura, 2023; 古橋ほか, 2024）、後者は学名未決定種として取り扱われているが（鈴木ほか, 2006; 明仁ほか, 2013; 瀬能ほか, 2021）、これらの標準和名と学名の対応関係については十分な検討が行われていない。本研究では、Keith et al. (2020) の分類学的整理および標本写真などの情報から、タメトモハゼに *G. tolsoni* の学名を適用することとする（詳細は備考を参照のこと）。

タメトモハゼは河川本流わきの池やワンド、河川中流域の淵、渓流域下部の河岸、細流の緩流部などに生息し（瀬能ほか, 2021）、両側回遊型の生活史をもつ（立原, 2015）。本種は道路建設や農地改良、圃場整備に伴う湿地の埋め立て、コンクリート護岸化、堰やダムによる河川の分断などが原因でその個体数を減じており（立原, 2015）、環境省版レッドリストでは絶滅危惧 IB 類に選定されている（環境省, 2020）。本種と同じく日本に分布するゴシキタメトモハゼとは、頭部が丸いこと（ゴシキタメトモハゼでは尖る）、眼の上縁に 1 列の小鱗があること（2–3 列）、体の腹側に 1 黒褐色縦線がないこと（ある）、臀鰭の中央付近に 1 黄色縦帯があること（中央付近と縁辺に 2 黄色縦帯がある）などで識別される（鈴木ほか, 2006; 明仁ほか, 2013）。

日本国内において、タメトモハゼはこれまで、千葉県（山川ほか, 2018）、神奈川県（山川・瀬能, 2016）、静岡県（北原ほか, 2012）、種子島および屋久島（米沢・四宮, 2002）、琉球列島（吉野ほか, 1975; Sakai et al., 2001; 吉郷, 2014; 古橋ほか, 2024）から記録されている。2025 年 11 月に徳島県の内妻川にて、1 個体のタメトモハゼが採集された。当該標本は、四国および徳島県からの本種の初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

ホルマリン水溶液にて標本の固定を行ない、固定後に



Fig. 1. Fresh specimen of *Giuris tolsoni* from the Uchizuma-gawa river, Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan (TKPM-P 27544, 40.9 mm SL). Photo: T. Ito.

アルコール水溶液にて保存した標本を計数・計測した。標本の計数・計測方法については、Hubbs and Lagler (2004) と Keith et al. (2020) に従った。魚体の左側を対象として計数・計測し、デジタルノギスにて 0.1 mm 単位まで計測した。サイアニンブルーで頭部感覚器官を一時的に染色して観察し、感覚管開孔の名称については、明仁親王ほか(1984)に従った。背鰭、臀鰭、尾鰭の鰭条と脊椎骨については、軟 X 線写真を撮影して計数した。標準体長 (standard length) については SL と表記した。本研究に用いた標本は、徳島県立博物館所蔵魚類標本 (TKPM-P) として登録されている。

Giuris tolsoni (Bleeker, 1854)

タメトモハゼ

(Figs. 1–3; Table 1)

標本 TKPM-P 27544, 1 個体, 40.9 mm SL, 徳島県海部郡牟岐町内妻白木, 内妻川, 2025 年 11 月 12 日, 庄野耕生.

記載 体各部の計数・計測値を Table 1 に示した。体は円筒形で、躯幹部後方と尾柄部は側扁し、頭部はやや縦扁する。体背縁は吻端から第 1 背鰭起部までゆるやかに上昇し、そこから第 2 背鰭起部まで体軸とほぼ平行となり、その後、尾鰭基底までゆるやかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭基部までゆるやかに下降し、そこから肛門までは体軸とほぼ平行となり、その後、尾鰭基底にかけてゆるやかに上昇する。眼は頭部前方の側面やや上方に位置する。吻は背面からみると丸い。口裂は端位で、上顎後端は眼の前端下にわずかに達しない。下顎先端は上顎先端よりもやや前方に突出する。両顎にはやや後方に湾曲した細かな円錐形の歯が密在する。前鼻孔は短い管状で、先端は上唇に達しない。後鼻孔は円形で、眼の前縁のやや前方の吻背面に位置する。第 1 背鰭は三角形で、背縁はやや円みを帯びる。第 1 背鰭起部は腹鰭基底後端よりも後方に位置する。第 2 背鰭起部は臀鰭起部の垂線上よりもわずかに前方に位置する。胸鰭は前後にやや長い楕円形である。左右の腹鰭は完全に分離する。腹鰭起部は胸鰭基底下端のほぼ同一垂



Fig. 2. Underwater photograph of *Giuris tolsoni* from the Uchizuma-gawa river, Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan (TKPM-P 27544, 40.9 mm SL). Photo: K. Shono.

線上に位置する。尾鰭後縁は円形。肛門は臀鰭起部のやや前方に位置する。頭部および胸鰭基部より前方の躯幹部側面と第1背鰭より前方の躯幹部背面、肛門までの腹部が円鱗に、胸鰭基部より後方の躯幹部側面と第1背鰭より後方の躯幹部背面、尾柄部が櫛鱗に覆われる。眼窩上縁の鱗は1列。背鰭の担鰭骨と脊椎骨の関係 (P-V) は 3/I II II I/8。

頭部感覚器官は、感覚管開孔である N', O' と、頭部背面、

側面、および腹面のやや発達した孔器からなる (Fig. 3)。

体色 頭部と躯幹部、尾柄部の側面および背面の地色は茶色で、頭部と躯幹部、尾柄部の腹面の地色は乳白色である。眼の直下から鰓蓋部にかけて2本の暗色斜帯があり、これらの斜帯の間と、その後方の鰓蓋部側面および腹面にかけては光沢を帯びた青色で、胸鰭基底はやや光沢を帯びた緑色。胸鰭基底の中央付近には、横向き of T 字状の黒色斑がある。胸鰭基底上部から躯幹部背面にかけて細く薄い暗色の鞍状斑がある。同様の鞍状斑が、第1背鰭基底後端付近、第2背鰭基底中央付近、尾柄部の前方および中央付近にある。躯幹部および尾柄部側面の中央付近は光沢を帯びた黄緑色を呈し、その下方はやや青みがかかる。胸鰭基底のやや後方から尾鰭基底にかけて、躯幹部および尾柄部側面のほぼ中央に腫と同程度の大きさの黒色斑が一列に9個並び、前方の3個の間には、暗色の短く細い縦線がそれぞれ上下に2本並ぶ。背鰭と尾鰭の鰭条はやや黄色がかった半透明の乳白色で、第2背鰭の棘条ではやや橙色を帯びる。第1背鰭基底付近と中央付近には細い暗色の縦帯があり、背縁付近にはやや太い暗色帯がある。第2背鰭には、腫よりも小さい暗色斑が散在し、第1背鰭、第2背鰭ともに鰭膜はやや黄緑がかった白色半透明である。臀鰭の鰭条および鰭膜は白色半透明であるが、緑辺付近では鰭膜がやや青みがかかる。腹鰭の鰭条および鰭膜は半透明の乳白色。尾鰭の鰭膜は白色半透明で、後方では細かな暗色斑が散在し、基底付近には腫よりも小さな暗色斑が少数ある。

分布 日本国内において、本種は千葉県 (山川ほか, 2018), 神奈川県 (山川・瀬能, 2016), 静岡県 (北原ほか, 2012), 徳島県 (本研究), 種子島および屋久島 (米沢・四宮, 2002), 琉球列島 (吉野ほか, 1975; Sakai et al., 2001; 吉郷, 2014; 古橋ほか, 2024) から記録がある。国外では、台湾, インドネシア, フィリピン, インド (大ニコバル島) に分布する (明仁ほか, 2013; Keith et al., 2020; Keith and Mennesson, 2020; Das and Sivaperuman, 2023)。

Table 1. Counts and measurements of *Giuris tolsoni* (TKPM-P 27544) from the Uchizuma-gawa river, Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan.

Standard length (mm)	40.9
Counts	
First dorsal fin (D1) rays	VI
Second dorsal fin (D2) rays	I, 8
Anal fin rays	I, 9
Pectoral fin rays	14
Caudal fin rays	14
Lateral scales	31
Predorsal scales	14
Transverse backward series	10
Transverse forward series	13
Zigzag series	10
Number of scales around the eye	8
Total vertebrae	25
Measurements as % of standard length	
Head length	30.4
Body depth at anus	20.5
Body depth at D1	21.6
Caudal peduncle length	26.9
Caudal peduncle height	14.9
Predorsal length	41.0
Preal length	62.1
Distance between D1 and D2	5.0
Pectoral fin length	21.6
D2 length	15.2
Anal fin length	15.2
Caudal fin length	24.7
Upper jaw length	9.2
Eye diameter	7.0
Interorbital length	10.9

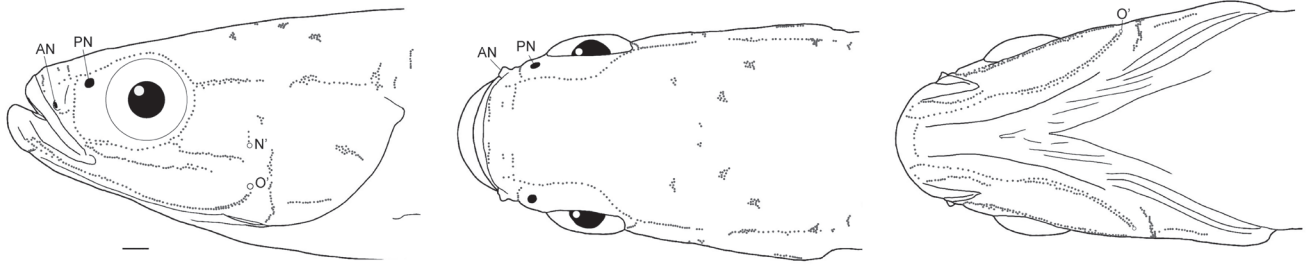


Fig. 3. Diagrams of cephalic sensory system of *Giuris tolsoni* from the Uchizuma-gawa river, Tokushima Prefecture, Shikoku Island, Japan (TKPM-P 27544, 40.9 mm SL). Lateral (left), dorsal (center), and ventral (right) views. AN, anterior nasal; PN, posterior nasal. N' and O' indicate sensory canal pores. Gray dots indicate sensory papillae. Scale bar indicates 1 mm.

生息環境 観察標本が採集されたのは、河口より 400 m ほど上流の感潮域直上部の淵（最大水深約 1 m）で、採集時の水温は 19.4°C であった。採集地点の河床には砂とシルト、砂利や直径 3–10 cm 程度の礫がみられ、木の枝や落ち葉の堆積があった。河川への温排水の流出はない。著者の庄野による同地での潜水での観察は、2023–2025 年にかけて毎年、4–12 月の間に 30 回程度、計 90 回程度実施されたが、本種が確認されたのは 2025 年 11 月 12 日の 1 個体 (TKPM-P 27544) のみであった。

備考 日本に分布するタメトモハゼ属魚類は 2 種（タメトモハゼとゴシキタメトモハゼ）が知られ、これらは学名未決定種として取り扱われていた（鈴木ほか, 2006；明仁ほか, 2013；瀬能ほか, 2021 など）。しかし, Keith et al. (2020) によって, *G. tolsoni* が再記載され, その後に, Motomura (2023) や古橋ほか (2024) では, タメトモハゼに *G. tolsoni* の学名を対応させている。Keith et al. (2020) および Keith and Mennesson (2020) では, 本属魚類 8 種の内, *G. tolsoni* のみが日本に分布するとしていることから, *G. tolsoni* はタメトモハゼあるいはゴシキタメトモハゼに対応するものと考えられるが, Motomura (2023) や古橋ほか (2024) では, タメトモハゼに *G. tolsoni* の学名を適用した根拠は示されていない。鈴木ほか (2006) や明仁ほか (2013) では, 日本に分布するタメトモハゼ属の 2 種は, 体腹側の 1 黒褐色縦線の有無（タメトモハゼではなく, ゴシキタメトモハゼではある）や, 婚姻色が出現した雄の臀鰭の色彩（タメトモハゼでは赤色縦帯と黄色縦帯があり, ゴシキタメトモハゼでは 2 黄色縦帯がある）などによって識別可能としている。Keith et al. (2020) にて示された *G. tolsoni* の標本写真 (fig. 3) では, 体の腹側に黒褐色縦線がなく (fig. 3B, C), 雄の臀鰭に幅の広い 1 黄色縦帯がある (fig. 3B) ことが確認できるため, Keith et al. (2020) での *G. tolsoni* は, 鈴木ほか (2006) や明仁ほか (2013) などでのタメトモハゼと対応しているものと考えられる。なお, 上記 2 種は眼の上縁の鱗列数（タメトモハゼでは 1 列で, ゴシキタメトモハゼでは 2–3 列）においても識別可能とされているが（鈴木ほか, 2006；明仁ほか, 2013), Keith et al. (2020) では,

眼の上縁の鱗列数には言及していないため, 本形質について検討はできなかった。以上より, 本研究では Keith et al. (2020) の分類学的整理とおよび標本写真から確認される色彩的特徴に基づき, タメトモハゼに *G. tolsoni* の学名を適用した。

観察標本は胸鰭条数が 14 であること, 縦列鱗数が 31 であること, 第 2 背鰭前方横列鱗数が 13 であること, 眼の周囲の鱗数が 8 であること, 肛門部での体高が SL の 20.5% であること, 第 1 背鰭起部での体高が SL の 21.6% であること, 尾柄高が SL の 14.9% であること, 両眼間隔が SL の 10.9% であること, 眼径が SL の 7.0% であること, 眼窩上縁の鱗が 1 列であることなどの特徴が, 鈴木ほか (2006), 明仁ほか (2013), Keith et al. (2020), Keith and Mennesson (2020) が示したタメトモハゼ *Giuris tolsoni* の形態的特徴と一致したため, 本種に同定された。

タメトモハゼは約 10 mm SL で河川に加入し, 着底すると考えられている（前田, 2014, 2017）。また, 屋久島では 10 月に全長 15 mm 程度の個体が河川淡水域で採集されている（米沢, 2003）。神奈川県では相模川の温排水が流出している地点にて, 2015 年 3 月に 50.9 mm SL の本種の標本が得られており, これは 2014 年の夏季から秋季に加入した個体が同地で一定期間成長した越冬個体と考えられている（山川・瀬能, 2016）。観察標本は 2025 年 11 月に採集され, 40.9 mm SL であったことから, 内妻川に加入後に一定期間, 成長したものと考えられる。本種の発育に関する情報はなく, 観察標本の内妻川への加入時期の具体的な推定は難しいが, 山川・瀬能 (2016) での事例や, 静岡県で採集された個体が無効分散と判断された事例（北原ほか, 2012）を鑑みると, 越冬はしておらず, 2025 年の夏季から秋季に加入した個体である可能性が高い。第 2 著者による内妻川での潜水調査において, 観察標本 1 個体のみが確認されたこと, 当該河川には温排水などの流出はないことから, 徳島県での本種の出現については, より南方の地域からの海流による無効分散と判断するのが妥当だろう。

謝 辞

匿名の査読者と Ichthy 編集委員の外山太一郎氏には原稿に対し、適切な助言をいただいた。これらの方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

引用文献

- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁親王・林 公義・吉野哲夫・島田和彦・瀬能 宏・山本隆司. 1984. スズキ目ハゼ亜目, pp. 228–276. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Das, M. K. and C. Sivaperuman. 2023. First record of snakehead gudgeon *Giuris tolsoni* (Bleeker, 1854) (Gobiiformes: Eleotridae) from Indian waters. *Biological Forum – An International Journal*, 15: 305–309.
- 古橋龍星・赤池貴大・是枝伶旺・橋本慎太郎・樋口聡文・金井聖弥・潮上太郎・中村亮太・清水直人・本村浩之. 2024. 与那国島から得られた魚類 43 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 47: 9–20.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 2004. *Fishes of the Great Lakes region*. Revised edition. The University of Michigan Press, Ann Arbor. xvii + 276 pp., 32 pls.
- 環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020. [URL](#) (27 Dec. 2025)
- Keith, P. and M. I. Mennesson. 2020. Review of *Giuris* (Teleostei: Eleotridae) from Indo-Pacific islands, with description of three new species. *Cybiurn*, 44: 331–349.
- Keith, P., M. I. Mennesson, S. Sauri, F. Busson, E. Delrieu-Trottin, G. Limmon, Nurjirana, H. Dahrudin and N. Hubert. 2020. *Giuris* (Teleostei: Eleotridae) from Indonesia, with description of a new species. *Cybiurn*, 44: 317–329.
- 北原佳郎・加藤健一・岡部 剛. 2012. 静岡県沼津市新中川で採集されたタメトモハゼ. *東海自然誌 (静岡県自然史研究報告)*, 5: 31–34.
- 前田 健. 2014. タメトモハゼ属の1種, pp. 1227–1228. 沖山宗雄 (編) 日本産稚魚図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 秦野.
- 前田 健. 2017. タメトモハゼ, pp. 276–277. 沖縄県環境部自然保護課 (編) 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版 (動物編) — レッドデータおきなわ —. 沖縄県環境部自然保護課, 那覇.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanaga-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- Sakai, H., M. Sato and M. Nakamura. 2001. Annotated checklist of the fishes collected from the rivers in the Ryukyu Archipelago. *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Series A*, 27: 81–139.
- 瀬能 宏・鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 2021. 新版日本のハゼ. 平凡社, 東京. 584 pp.
- 鈴木寿之・坂本勝一・瀬能 宏. 2006. 絶滅の危機に瀕するハゼ亜目魚類 2 種に対する新標準と名の提唱. *魚類学雑誌*, 53: 198–200.
- 立原一憲. 2015. タメトモハゼ, pp. 228–229. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (編) レッドデータブック 2014 — 日本の絶滅のおそれのある野生生物 — 4 汽水・淡水魚類. ぎょうせい, 東京.
- 山川宇宙・瀬能 宏. 2016. 相模湾流入河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 16 種. *神奈川自然誌資料*, 37: 44–52.
- 山川宇宙・三井翔太・丸山智朗・加藤柊也・酒井 卓・瀬能 宏. 2018. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 18 種 — 近年における暖水性魚類の北上傾向について —. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 47: 35–57.
- 米沢俊彦. 2003. タメトモハゼ, p. 127. 鹿児島県環境生活部環境保護課 (編) 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編 — 鹿児島県レッドデータブック —. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島.
- 米沢俊彦・四宮明彦. 2002. 種子島・屋久島で採集されたタメトモハゼとシマエソハゼ. *伊豆海洋公園通信*, 13 (8): 2–6.
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuana*, 9: 1–153.
- 吉野哲夫・西島信昇・篠原士郎. 1975. 琉球列島産魚類目録. 琉球大学理工学部紀要 理学編, 20: 61–118.